

平成 28 年度 第 1 回 玉野市行政改革推進委員会 議事概要

日 時：平成 28 年 8 月 2 日（火） 14:00～15:30

場 所：玉野市役所 3 階 特別会議室

出席委員： 岡本 輝代志 委員（会長） 加藤 珪一 委員（副会長）

宮原 一也 委員 岡崎 晋典 委員

東海 満則 委員 池田 美知子 委員

赤木 大介 委員 東 りえ 委員

江田 康夫 委員 久富 郁郎 委員

長尾 タエ子 委員 近藤 恭平 委員

欠席委員： 藤原 克己 委員 森本 宏子 委員

事務局： 玉野市長 黒田 晋

玉野市副市長 西村 薫三

玉野市政策財政部長 加藤 翔大

玉野市政策財政部総合政策課長 中嶋 英生

玉野市政策財政部財政課長 藤原 秀紀

玉野市政策財政部総合政策課長補佐 小笠原 隆文

玉野市政策財政部総合政策課行政管理室長 山平 智宏

玉野市政策財政部総合政策課行政管理室主事 山本 優希

1 開会

2 市長挨拶

3 委員紹介

4 玉野市行財政改革基本計画について

委員：市の財政に余裕が無いのは理解したが、その様な状況においても市としての特徴を維持する必要がある、その為に必要な事業を定めた指針等は存在するのか。

事務局：財政状況を鑑みながら玉野市に必要な取り組みについて関係課と調整中であり、玉野市行財政改革大綱実施計画にて示す予定である。

委員：基本計画については、現状の課題分析として評価できるが、一番大事なことはこの結果を受けて何を行うかである。消防の迅速な救急体制は市の売りではあるが、財政状況が悪いのであれば、他市の平均まで下げる変革も必要であると考え。また、支出面の対策とあわせて「歳入」を向上させる施策も必要であると考え。玉野市が年金受給者の経済活動にどの程度支えられているかは分からないが、高齢者も今後減少傾向となることが予測されるなか収入は増々減少していくと想定される。働く場所を確保するなど、若者に都会から戻ってもらえる様な施策が必要なのではないか。

- 委員 : 玉野市は、東西に長細い地形のため行政効率上不利であると考えても仕方がない、この状況を生かしていただきたい。また、玉野市は施策を講じるスピードが遅いと感じている。民間企業までとは言わないが、極力迅速に講じる様に努めていただきたい。収入増の施策として、特区の設置等についても考えていただきたい。
- 委員 : 玉野市の予算は交付税と住民税にて成り立っていると考える。人口減少は予算を維持していく上での大きな課題であることから、移住対策を講じる必要があると感じている。一案として、少子化で生徒の少なくなった学校を統廃合し、余った敷地に特別養護老人ホームを設置して、他県から家族同伴で移住させる手法についても検討していただきたい。
- 委員 : 住居は岡山市で職場は玉野市の方が大変多く、玉野市が目指すべき状態と相反していると考ええる。玉野市をベッドタウンとする様な施策を講ずべきである。
- 委員 : 子どもをもつ家庭に玉野市に住んでもらう為には、教育の充実は欠かせないと考える。また、併せて貧困家庭に対してサポートを行っていく必要もあると考えている。
- 委員 : 玉野には年間100人以上の新規採用を行う三井造船があり、人口増加のためには恵まれていると感じている。課題は、その働き手を市内定住に繋げられていないことだと考える。
- 委員 : 鯖江市の様に成功している自治体を参考にすることも必要であると考ええる。また、若者が地域の街づくりに自然と関わっていく様な環境づくりが大事であり、それに向けた市のサポートも必要であると考ええる。
- 委員 : 玉野は災害が少なく、環境も良く、大変魅力的だと住んでみて感じており、定住が進まないことについて疑問を感じている。何故住まないのか理由を調査すべきではないかと感じている。
- 委員 : 歳入の増加を求めるためには、チャレンジが必要である。ただし、今のところ投資できる予算の規模が示されていない。今後は、この投資可能な予算を含めて協議することが必要と考える。また、岡山市、倉敷市も人口が減っている中、玉野市だけ人口を増やすことは現実的ではないと考えるが、その中においても人口をいかに維持し行政サービスを維持する手法について検討すべきであると考ええる。
- 委員 : 東京から風光明媚な瀬戸内海に憧れ玉野に移住してきた若い女性の知り合いがいる。この様な方が、玉野に家庭を築き、親族共々玉野に定住でき人口増に繋げる様な子育て・教育施策を行っていただきたいと考える。
- 委員 : 玉野市の行政に長年関わってきたが、今は玉野市の転機であると感じている。玉野市は活性化を行う姿勢が見えず、伸びる余地がありながら活性化できていないと感じている。活性化には「住民の誇り」、「賑わい」、「産業化」、「情報発信」の4つの方向性が必要である。また、玉野市に住む方が減ってきているのは、玉野の魅力が欠けているためであり、発展させて魅力を作る必要がある。発展には「産業の発展を住民が

認識すること」,「生活基盤が完成していること」の2点が必要である。地政学的に東西に長いことが生活基盤,生活交通体系の弱さに繋がっていると認識しているが,現在の財政状況において整備することは困難と考える。産業の発展についてであるが,ここで市民が思い浮かぶ発展は,人が多く集まってくる商業の発展であり,この賑わいが定住人口の増加に繋がってくると考える。

消防署,市営の幼稚園,高校が多くあるなど,県内15市の平均に比べて高い歳出の要因は,逆転の発想をするならば市の特徴となり得る要素であるとも考えられる。この様な特徴を生かすような施策の方向性を市長のもと定めていただきたい。

また,東京から岡山へ移住するという流れができつつある為,人口増加策としてUターンだけではなくIターンに注力していただきたい。

5 今後のスケジュール(事務局より説明)

6 副市長挨拶

7 閉会